

インフォメーション

■会議報告

第 29 回国際土岐コンファレンス (ITC29)

久保 伸 (核融合科学研究所)

標記会議が 2020 年 10 月 27 日から 30 日まで岐阜県土岐市のセラトピア土岐を主会場としリモート会議も併用して開催され、11 か国から約 230 名の研究者が参加しました。本会議は、国際組織委員会 (委員長: 竹入康彦・核融合科学研究所長)、国際プログラム委員会 (委員長: 花田和明・九州大学応用力学研究所) および現地実行委員会 (委員長: 筆者) で構成されたプラズマおよび核融合研究に関する国際会議です。国際土岐コンファレンス (ITC) は核融合科学研究所が創立した 1989 年以降ほぼ毎年土岐市で開催され、今回で 29 回目の開催となります。コロナ禍の影響で開催が危ぶまれる中、徹底した会場での感染防止対策とリモート会議 (口頭発表は Zoom Webinar) を併用 (写真 1, 2)、ポスターセッションは Remo による完全リモート開催 (写真 3) とすることで、参加者をはじめとする関係各位のご理解とご協力を得て例年並みの規模での開催とすることができました。

今回の会議ではプラズマ・核融合分野の実験・理論・シミュレーション研究の幅広い最新の成果報告に加えて、今後の核融合研究にとって最重要課題の一つである磁場閉じ込め装置の定常運転に関わる特別セッションを設けて開催しました。同時に核融合に関係する企業 4 社による企業展示も Remo で実現しました。今回の国際土

岐コンファレンスには 11 か国から 225 名の参加登録があり、218 件の発表がプログラムされました。

本会議では、松永剛那珂核融合研究所上席研究員 (量子科学技術研究開発機構)、森崎友宏大型ヘリカル装置計画研究総主幹 (核融合科学研究所) に、それぞれ「JT-60SA プロジェクトの現況」、「磁場閉じ込め核融合の定常運転」について基調講演をいただきました。これら 2 件の講演に加えて、25 名の招待講演者に幅広い分野にわたる最新の研究成果を発表いただき、一般講演としては、口頭発表 10 件、ポスター発表 177 件の合計 214 件の発表がありました。なかでも今回の会議の特別セッションとして取り上げた「磁場閉じ込め核融合の定常運転」に関連する幅広い発表に対して多くの議論が行われました。また、プログラム委員長の発案によって設けられた「データ駆動型プラズマ科学」セッションでは今後の研究の一つの方向性として注目すべき流れが示されました。前回よりプラズマ・核融合研究のさらなる発展に資するため設けた ITC 学生優秀発表賞では、卓越した発表を行った 7 名が受賞しました (写真 4)。これらの発表から投稿・査読を経たものがプラズマ・核融合学会の学術誌 Plasma and Fusion Research において出版されることになります。

次回の国際土岐コンファレンスは 2021 年 11 月 16 日 (火)~19 日 (金) の日程で土岐市において開催が予定されています。

(原稿受付: 2020 年 11 月 18 日)



写真1 開会式の様子。



写真2 講演の様子。

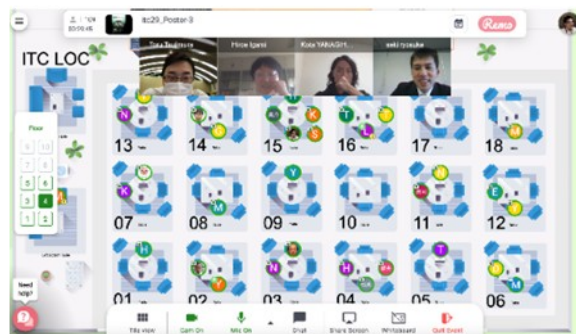


写真3 Remoによるポスターセッションの様子。



写真4 学生優秀発表賞受賞者。